



TITLE:

# グットウィルに関する一研究 - グロスマン教授の研究の紹介 -

AUTHOR(S):

熊本, 吉郎

---

CITATION:

熊本, 吉郎. グットウィルに関する一研究 - グロスマン教授の研究の紹介 -. 経済論叢 1934, 38(2): 610-621

ISSUE DATE:

1934-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130412>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第二號

第三十三卷

昭和九年二月一日發行

## 論叢

印紙税に就きて

法學博士神戸正雄

購買力

經濟學博士小島昌太郎

チャーマーズの恐慌理論

經濟學博士谷口吉彦

## 時論

農村經濟更生運動の目標

經濟學士八木芳之助

## 研究

會計學に於ける取引の概念と形態

經濟學士蜷川虎三

米國新産業政策の一斷面

經濟學士大塚一朗

資本蓄積率變化論補遺

經濟學士柴田敬

## 說苑

グットウィルに關する一研究

經濟學士熊本吉郎

本邦製紙業に於ける混合企業と單純企業

經濟學士田杉競

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

## 説苑

### グットウィルに關する

#### 一研究

——グロスマン教授の研究の紹介——

熊本吉郎

#### 一 は し が き

無形財産の一の重要な部分として、グットウィル (Goodwill) なるものがある。我國に於て、通常、暖簾と稱せられる所のものである。而して、このグットウィルが、企業に存在することは、一般に認められて居る。併し乍ら、グットウィルは、今日、會計學の領域に於ても、依然として問題となつて居る。それは、特にグットウィルの貸借對照表記載能力の有無並に企業の評価に關してである。がそれを解決する爲には、

第三十八卷 六一〇 第二號 一三八

更に根本的に、グットウィルの本質、即ちその概念内容が究明されなければならないが、それも尙ほ種々の見解の下に歸一する所なきが如くである。我國に於ても凡ゆる會計學書に於て、その内容の一部として取扱はれて居るほかに、最近<sup>1)</sup>、著書に、論文に、その研究が公にされて居る。が、これらの著書又は論文に於ける解明は、必ずしも我國のもの許りではなく、諸外國の文獻に於ても同様であるが、未だ明確な結論に達して居るとはいひ得ない。

この時に當り、最近の獨この經營經濟雜誌に H. Grossmann 教授が「Neue Forschungsergebnisse zur theoretischen und praktischen Handhabung des Goodwill」なる標題を以て、グットウィルに關する一研究を發表せられて居る。この論文に於ける教授の所説が總てを解明し盡せるものとは勿論稱し難く、種々の缺點をもつては居る。けれども、グットウィルに對する一の見方として参考となる點も多い。故に教授の見解について以下簡単に紹介しやうと思ふ。但し、この論文

1) 高瀬莊太郎教授、暖簾の研究  
2) 高瀬教授、無形財産の貸借對照表能力、經營經濟研究、第6冊。中西教授、企業の評価、經濟學論集第3卷第5號。金洵植、暖簾と超過收益との關係の見方、明大經濟論叢第12卷第2號。今井忍、暖簾に關する經營經濟學的見方 (Mohr の著書の紹介) 會計第33卷第2號。星野誠、稅法上より見たる營業權、會計第33卷第1, 2, 3, 4號。

は四節に分たれ、第一節には英國及びアメリカ流の見解並に從來の獨この見解による、資本還元されたる超過収益としてのグットウイル、第二節には本研究に基づく給付に依存する附加収益としての給付制約的グットウイル、第三節にはグットウイルの減價銷却、第四節には破産に於けるグットウイルが取扱れて居るが、本稿に於ては、第二の部分、即ち、グットウイルの概念規定に關する部分についてのみ紹介せんとするものである。

## 二 グロスマン教授の見解

グットウイルに就て、ドイツに於ては、二つの見解がとり入れられてゐる。その一はイギリス流の良好なる傳來的得意關係と見るものであり、その二はアメリカ風の資本還元されたる超過収益と見る見解である。がかゝる見解は概念の精密なる規定を缺き、特に獨立して販賣することの不可能なる性質が考慮せられて居ない點に缺陷が認められる。また、一九三一年の商法

グットウイルに關する一研究

に於ける見解及び税法上の見解も、その根本的成立動機が見逃されて居り、特に給付制約性が考慮せられて居ない點に一缺陷が認められる。然らば、吾々は、グットウイルの概念を如何に規定すべきであるか。

### I、根本的積極的概念特徴

グットウイルの概念を決定する爲の必然的條件として、次の四つの基本的特徴が擧げられる。

A、附加的収益<sup>3)</sup> グットウイルが存在することを示すものは、この附加的収益であつて、収益を獲得するといふことが、グットウイルの概念構成に對して決定的前提をなす。而して、得意先關係とか、超過利益<sup>4)</sup>は決定的概念特徴とはなり得ない。特に資本還元されたる超過價值は、附加的収益が、ある事情の下に於てのみ、それとして計出されるものである。

又、グットウイルは物財とか權利とは全く別である。經營に用ひられる所の、從つて個別的には非獨立的なる權利及び財産價值的關係がグットウイルを生ぜしめるであらうが、それはグットウイルの基礎或は擔ひ手<sup>5)</sup>

3) Zeitschrift für Betriebswirtschaft, 1933, Jg. X, Heft 8.

4) Zusätzlicher Ertrag, 資本還元されたる超過収益の意味ではない。

5) Überrendite

6) Basis und Träger

に過ぎず、グットウィルそのものではあり得ない。

尙ほ、グットウィルは貸借對照表に記載せられざる價值ではあるが、秘密積立金とは明確に區別しなければならぬ。グットウィルは財産價值を決定する場合に、例へば、事業を賣却する時にのみ、記載せられ、通常の會計年度に於て再生産價值で現れることは絶對にあり得ない。

B、個別性<sup>7)</sup> 第二の概念特徴としてあげられるのは、個別性といふことである。即ち、グットウィルの存在は、その企業に對してのみ個別的に收益が歸屬するといふことにある。これに對して、集團的成果影響要素なるものが考へられる。即ち、この要素によつて、凡ゆる企業が、從つて多數の異なる企業が利益を享受するが如きものである。集團的全般的に利益が享受せられる限り、それはグットウィルの性質を喪失する。従つて、經濟一般に亘つて收益に影響を及ぼす諸力、例へば景氣の影響、一時的或は繼續的の商業部門全般の超過收益、立地或は原産地表記等は、こゝにいふグ

ットウィルに加へられない。然れ共、かゝる諸要素は、グットウィルの重要な基礎を形成すること、即ち、グットウィルの創造に與つて力あることを忘れてはならない。

C、勞務制約性<sup>8)</sup> グットウィルは「Ein arbeitsbedingter Intensitätsfaktor」として見なければならぬ。即ち、勞働、それは企業内にて生産に従事するもの總ての時間的に束縛された勞働がグットウィルを生ぜしめる。このことは、グットウィルが勞働集約的經營に於て、第一に形成されることを知れば明かであらう。かくて、第三の特徴として、勞働制約性があげられなければならない。

D、取引上の非獨立性<sup>10)</sup> グットウィルの獨立性とか非獨立性とか問題とされるに至つたのは、商法及び税法で、その貸借對照表記載能力或は貸借對照表記載義務が問題とせられたことに初まる。併し、グットウィルが創造せられた企業から離れて獨立に、評價、賣却、讓渡がなし得るか否かは疑問である、むしろ、否

7) Individualität

8) Leistungsbedingtheit

9) Arbeitsbedingtheit

10) Nichtselbständigkeit in Verkehr.

定さるべきであらう。如何なる場合でも、グットウィルは、それだけを離して中立的客觀的に評價の可能なもの、従つて獨立せるものではあり得ない。即ち、グットウィルは無形的であり、不可量的性質のものであることが前提せられる限り、この非獨立性が概念構成の特徴として擧げられねばならぬ。かくて又、グットウィルのトレーガーとの不可分的關係が決定的となる。而して、グットウィルのトレーガーを明確に認識すれば、一方に於て、グットウィルの非獨立性、即ち非讓渡性が、他方に於て、それだけを分離して客觀的に評價することの不可能なる性質（不可量財）が明かにせられる。

## II、グットウィル・トレーガー<sup>12)</sup> (Goodwillträger)

かくて次に問題となるのは、グットウィルが關係して居る所のグットウィルの基礎或はトレーガーである。こゝに於て、企業に於ける物的諸力並に價值及び人的諸力並に價值が問題となる。物的なものとしては、就中組織（内部組織及び販賣組織、良好なる市場關係及び最少

費用）がある。商號及び經營給付それ自體も亦第一位に來るグットウィルのトレーガーであり、得意先の好感、及び信頼も、それある爲に取引を増し、收益を増す限り、グットウィル・トレーガーと見做される。

グットウィルに對する人的基礎となるものは、企業者、社員、及び勞働者の利益獲得技能、特に一定の經驗及び能力がその主たるものである。従つて、トレーガーは企業内にて働く所の、或は企業のために働く所の主體即ち人間である。

尙ほグットウィルにとつて、トレーガーとして通常問題となるのは、企業に屬する部分（人及び物）に限ることには注意しなければならぬ。

また、グットウィル・トレーガーは貸借對照表に總てが記載され得るものでなく、記載されるのは、その一部分に過ぎない。故に、貸借對照表から出發する限り、企業の附加的價值を貸借對照表に記載される物及び權利に分配せんとする分配理論<sup>13)</sup>を以てしては、積極的結論に達し得ないことを知る。グットウィルの複合

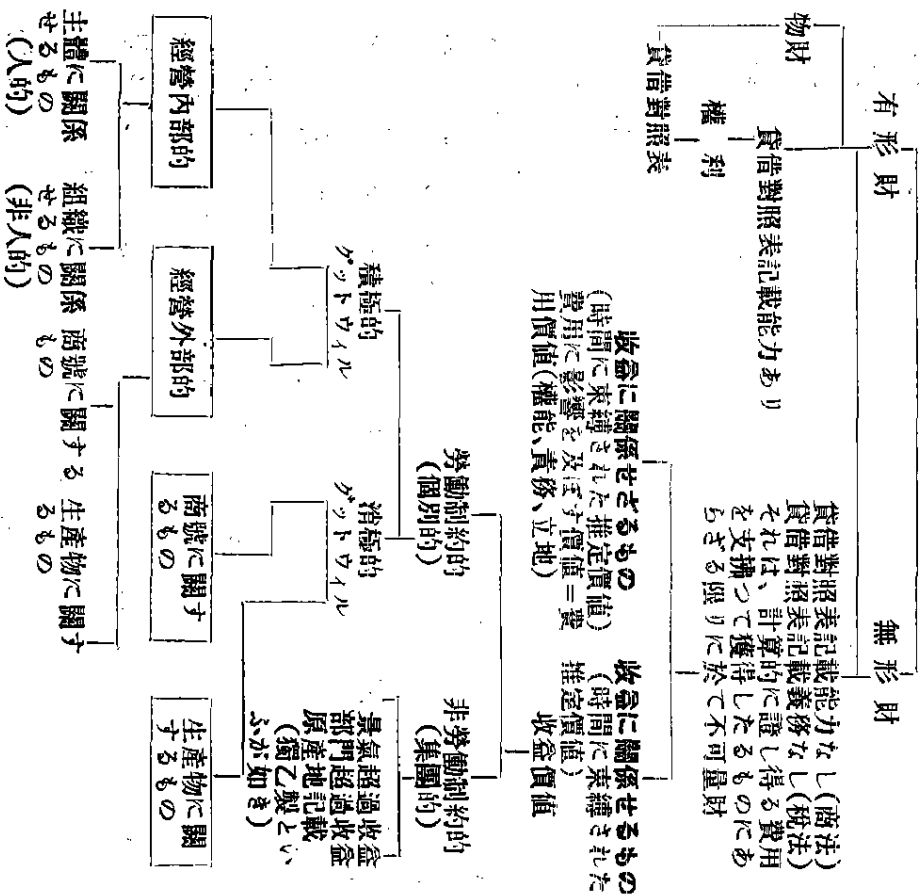
11) Ein isoliert neutral und objektiv bewertbares und daher ein selbständiges Etwas.

12) グットウィルの擔ひ手又は招來者

13) Zuteilungstheorie.

1) ネットウイールの企業總體價值に對する關係

總體價值、市場性收益價值として算定



11) 評價の時點に關しての説明

| 評價の時點  |  |
|--|--|
| 過去←  | →將來 (時間的束縛)  |
| <b>絕對的貸借對照表價值</b><br>中立的直接的に評價の可能な、無形財産に有形財産、それらは、取引能力あることで實體性が與へられる | <b>收益依存價值及び費用價值</b><br>(條件付貸借對照表價值) 資本還元されたる、即ち計算されたる利益可能性、それは企業に束縛せられて居り、たゞ主觀的にのみ評價し得るもの<br>ネットウイール |

企業總體價值

物を種々のグットウィル・トレーガーに分つことは可能であらうが、その場合には、グットウィル・トレーガーの貸借対照表記載能力に規定さるゝ所なく行はれなければならない。

### III、グットウィルの企業總體價值に對する關係

A、不可量的な、貸借對照表記載能力なき、勞務制約的收益價值としてのグットウィル 企業の總體價值を圖解的に分析すれば前頁第一表の如くであり、これによつて、説明に代え得る。

B、資本還元されたる利益可能性としてのグットウィル 時點を考慮に入れ、ば、グットウィルは資本還元せられたる利益可能性として現れる。即ち、それは靜的に見られたる貸借對照表用語によれば、尙ほ實現性なき、少くとも尙ほ實現せられなかつた利益であることを意味する。

圖解IIは取引能力をもつといふことの外に、中立的直接的評價可能性をもつものゝ貸借對照表價值のみが、實體性<sup>14)</sup>をもち得ることを教ふる。企業に束縛され

た推定價值としての、即ち資本還元された利益可能性としての派生的グットウィルは決して實體性をもち得ない。グットウィルが物化される傾向といふことも亦、本質的ならざるものゝ誤認である<sup>15)</sup>。

C、慣用語の意味に於ける「Geschäftswert」としてのグットウィル 圖解Iの示す所によれば、グットウィルは、時間的に拘束せられた推定價值である所の、そして個別的な勞働制約性に内在せる所の、不可量的にして而も收益に依存する財であることを知る。従つて、グットウィルは貸借對照表記載能力なき無形財の一部であると同時に他方、先づ收益に關係せざる費用價值が除外せられ、更に勞働に制約せられざる收益價值が除かれる。

所がドイツ大藏省及び各文献に於ては、貸借對照表記載能力なき無形財の全體を「Geschäftswert」と解し、この「Geschäftswert」をまたグットウィルと同一視した。が吾々の見解によれば、グットウィルはかゝる用法の「Geschäftswert」の一部に過ぎない。

14) Gegenstandseigenschaft.

15) 獨乙大藏省の見解は之と全く反對である。有償取得のものゝみが實體性をもつとする。



#### IV、グットウィル概念の消極的限界

次にグットウィル概念の消極的限界について述べなければならぬ。その第一は収益に關係せず、貸借對照表記載能力なき無形財であつて、その存在が單に費用側から明かにせられるが故に費用價值によつて記載されるものであり、その第二はグットウィルとは稱せられない所の *Geschäftswert* なる無形的財貨複合體であつて、収益に直接に影響を與へるが、勞働に關係しない所の時間的に拘束せられた推定價值である。<sup>16)</sup>

景氣好調によつて増大せる収益は、附加的収益であるだらう。併し乍ら、之は個々の企業に對するのみならず、企業全體に對して生じ、而もこの超過収益は勞働に關係なく生ずる。故にこゝにいふグットウィルから除かれなければならぬ。景氣が悪くなれば、超過収益も亦、人的生産能力に無關係に低減する。景氣が頂點にあれば、超過収益が増し、同部門の新しい企業の設立を刺激し、供給が増し、價格が低落し、従つて附加的超過収益はなくなつてしまふ。併し乍ら、企業家

的優秀なる技術を以てその競争者を撃退し得るものは、尙ほ給付能力による超過収益は増大してくる。かくて資本還元されたる超過収益の總てが、グットウィルを示すものではないことを知る。

企業の立地についても、從來グットウィルの定義に對して重要視せられ、度々取り入れられて居る。例へば停留所の新設、市街軌道の敷設等は個人商業に對して、得意先を増大し、超過収益をもたらすであらう。従つてそれはグットウィル、特に *Sandorfgoodwill* を形成すると述べられる。併し乍ら、これは誤れる主張の如くである。經營外部の要素によつて立地がよくなつたことは、直接に財産増價に織込まれて居り、自己資本費用の増加せる場合に、成果計算に何等積極的影響を惹き起さない一回限りの或は繼續的な財産收入と同様に作用する。吾々の見解によれば、立地は財産價值調節器として、グットウィルに何等の關係をもち得ない。これ、特に立地の良化が賃貸經營に及ぼす影響を見れば明かである。

16) 例へば、地方公定率により相對的に割安なる賃銀(立地)、競争協定、長期契約等。

17) 例へば、景氣とか原產地記載等。

## V、消極的グットウィルと積極的グットウィル<sup>18)</sup>

A、消極的グットウィル 圖解に示される如く、吾

々はグットウィルを消極的グットウィルと積極的グットウィルとに分つ。消極的グットウィルといふことはそれ自體矛盾の如くに思はれる。併し、ある無形の不可量物にして、企業の収益を悪化せしめ、吾々の前に現象する形に於て、積極的グットウィルと同様の姿をとる——その故に、敢へて消極的グットウィルと呼ぶ——ものが存在する。實例を示せば明かであらう。例へば、

《不潔》であるといふ評判を一度受けたホテルは、經營者が代つて、實際に清潔となり、料理も上等で而も安價であつても、公衆は、そのホテルに寄り付かず、從つて引き續き収益は減少し、經營者はこの消極的グットウィルに悩まれる場合とか、従前惡質なりと銘をうたれた商品が、その後良質になつてからも、購買者は單純にその購入を嫌ふやうな場合等が之である。但し、消極的グットウィルの存在は、當該企業の全體の収益性（積極的或は消極的）に全く依存しないことに注

意しなければならぬ。

B、積極的グットウィル 積極的グットウィルは二つに、即ち、經營内部的グットウィルと經營外部的グットウィルとに分たれる。

イ、經營内部的グットウィル

經營内部的グットウィルとは繼續的能動的經營活動によつてのみ實現せられる所のものであると解する。従つてこのグットウィルの根源は經營内に於て求められなければならない。

α、主體に制約さるゝグットウィル<sup>20)</sup>

その第一に舉げられるグットウィル・トレーガーは、經營内に於て活動する所の肉體的人間である。次いで、廣義に於ける經營組織もグットウィルの基礎となり、従つて、組織に制約されるグットウィルが認められる。よく活動し、調和のとれた生産能力ある使用人及び勞働者（適材適所）、特に獨特の吸引力をもつ個性の如きがこれに屬する。

β、組織に制約さるゝグットウィル<sup>21)</sup>

18) negativer Goodwill und positiver Goodwill

19) Kraftzentrum

20) 人的經營力によるもの

21) 物的經營力によるもの

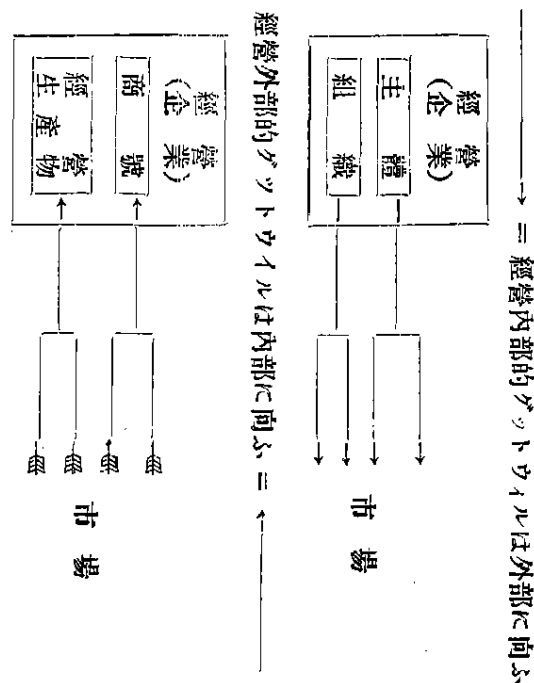
一言にしていへば、近時の經營經濟學書に於て、  
 「Betriebsharmonie」と呼ばれる所のものである（經營組織）。個々の内面的にじっくりして居る作業場の如き之で、非常に勝れた生産能力をもつものである。更にまた、個別的合目的の工程及び勞働方法、特別な經營狀況に適合せる販賣組織、市場分析に對する特有の知識等もこれに算えられる（取引組織）。

ロ、經營外部的グットウィル

經營外部的グットウィルが經營内部的のものと區別せられるのは、その根源が經營外に、従つて市場に存在する點である。このグットウィルは一般公衆から、當該企業に附與せられるもので商號に對する信頼、一定の表記の下に知られて居る生産物に對する絶えざる需要として現れる。従つて次の二つにこれを分ち得る。

- a、商號に結びつけるグットウィル
  - b、生産物或は給付に結びつけるグットウィル
- これ等のグットウィルの作用する方向を圖示すれば

次の如くである。



Ⅶ、グットウィルと企業の總収益

次に、グットウィルに基く収益部分と企業の總収益或はその収益性との間の關係について、述べなければならぬ。吾々の見解に従へば、グットウィルは利益を擧げる企業のみならず、損失を示す企業に於ても等しく存在するものと思ふ。即ち、たゞ附加的収益力の存在が決定的の要件をなすものである。グットウィルは利益經營に於ては収益性を増加し、これに反して損

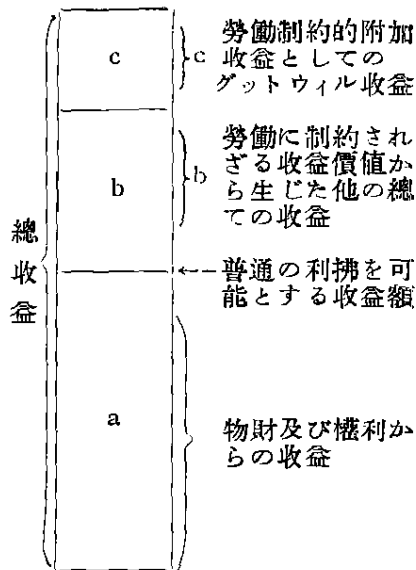
失經營に於ては損失を減少せしめるものである。

A、時に不變的性質をもつ、成果實現要素としての

グットウィル      グットウィルの作用は企業組織

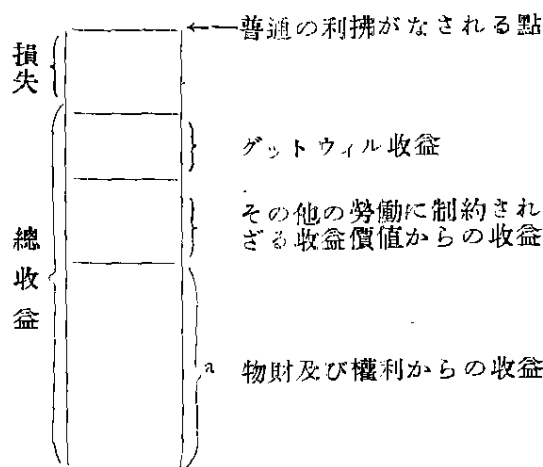
等しい場合に毎會計年度に於て、多少恒同的性質をもつ。如何なる場合でも、グットウィル・トレーガーが企業内に保れて居る限り、グットウィルの變化は長期的波動をなすに過ぎない。グットウィルを強く維持して居る企業が、景氣損失によつて數年間損失を示し、結局破産に陥つた場合でも、グットウィルは依然存在して居る。

利益増進要素としてのグットウィル

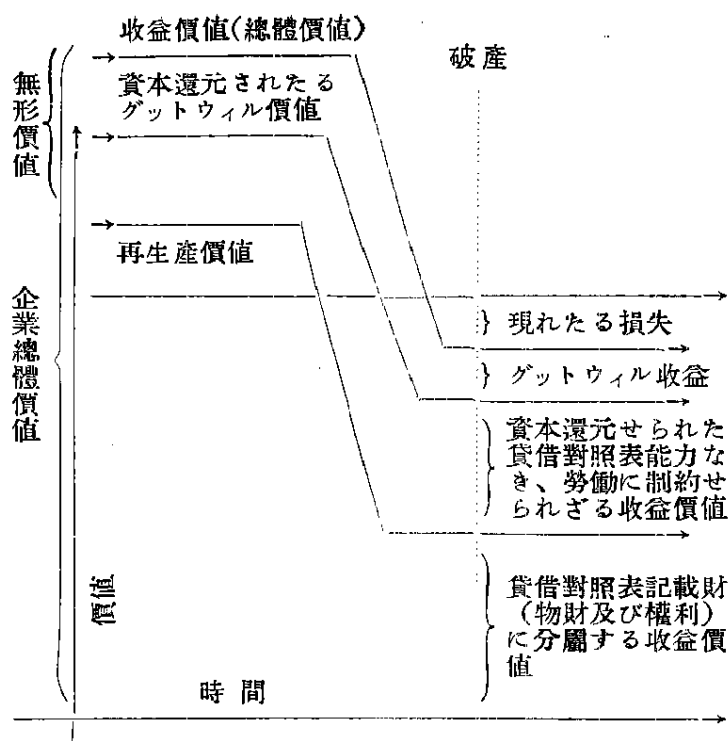


グットウィルに関する一研究

A、損失經營に於けるグットウィル  
損失減少要素としてのグットウィル



企業の収益價值について、認識したる所を平面圖にて示せば、次の如くである。



斯くて、實際上からも、資本還元されたる超過収益が存在しない時、或は積極的収益が最早や存在し得ない時にも、グットウィルは存在し得ることを知る。換言すれば、損失の生ずる場合にも、グットウィルは存在すると主張し得られるのである。その故に、グット

ウィルは資本還元せられた超過収益の存在することによつて存在し、資本還元されたる超過収益と同視する命題は誤であると見なければならぬ。だから、吾々は資本還元されたる超過収益といはずして、附加的収益といふ所以もこゝにある。附加的収益は、勞務制約的超過収益として、物財及び權利から生ずる正常以下の収益を超える部分に附加せられるものである。勿論その場合にグットウィルは資本還元されたる収益價值として再生産價值を超える必要のないことはいふまでもない。

### 三 結 語

以上、グロスマン教授のグットウィルに関する研究を概略乍ら紹介した。この論文に於て、グットウィルなるものの概念内容が特に所謂 *Geschäftswert* との相違、従つてグットウィルと呼ばれるものの範圍、發生原因等につき、從來説かれて居るものより精密に規定されて居ることは注目し、参考になると考へる。併し乍ら、尚ほ吾々の要求する點があます所なく解明

されて居るとは思はれず、批判さるべき餘地を残して居るやうである。その主たる點を指摘すれば、収益の概念規定、特に純損失の生ずる企業に於ける場合の不鮮明、グットウィルとグットウィル・トレージャーとの關係並に附加的収益との關係についての根本的規定、グットウィルの概念規定に關して種々の條件があげられて居るが、何故にかゝる條件があげられねばならぬいか、而して、それはむしろ第二の問題であつて、更に根本的にはグットウィルの存在を認めねばならず、また認むることを要求する歴史的社會的關係の解明、更にまた、獨占との關係についての究明の缺除並に剩餘價值生産及び實現過程に於けるグットウィルの作用、グットウィルの本質的價值論的展開の缺除等が特にその著しき點である。

併し乍ら、本稿に於ては、私見を述べず、單に紹介をなすに止め、批判は他日に譲りたいと思ふ。

(一九三三、一一)